

会 報 《第 467号》

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



令和7年1月1日

《目 次》

- | | | | |
|-----|-------------|---------------------------|-----------|
| I | 新年ご挨拶 | 「巳年 復活と再生の年に向けて」 | |
| | | 会 長 山 本 康一郎 | ・・・ 2頁 |
| II | 新春メッセージ | 「躍進する兵庫へ さらなる挑戦」 | ・・・ 3頁 |
| | | 兵庫県知事 齋 藤 元 彦 | |
| III | 新年ご挨拶 | 役 員 一 同 | ・・・ 4頁 |
| IV | 会員寄稿 | 「東洋電気工事（株）」 | ・・・ 5～7頁 |
| | | 東洋電気工事（株）代表取締役副社長 合田 和弘 氏 | |
| V | 事業推進委員会の開催 | | ・・・ 8頁 |
| VI | お知らせ・広報コーナー | 行事予定、編集後記、住宅再建共済制度 | ・・・ 8頁～9頁 |



《新年のご挨拶》



「巳年 復活と再生の年に向けて」

一般社団法人 兵庫県建築会

会 長 山本 康一郎

新年明けましておめでとうございます。

本年が皆さまにとりまして、健やかで希望に満ちた素晴らしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は元日の夕方に、最大震度7を観測する能登半島地震が起こり、多くの死傷者が生じました。また、翌日夕刻の羽田空港では、旅客機と海上保安庁機が激突炎上する大惨事が起こり重苦しい年始となりました。

春以降では、猛暑に見舞われる中、各地で豪雨災害がたびたび起こり、能登半島では9月の記録的な大雨により、再び被災する複合災害となりました。脆弱な道路網が復旧を阻み、2年目の厳しい冬を迎えています。当会からも義援金をお送りしましたが、改めて被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧復興を応援したいと思います。

また、建設業界では、就労の2024年問題は経営に直結する大きな課題であり、発注者の協力が必要不可欠であります。そして、我々が暮らし営む兵庫県では、元県幹部の文書問題に端を発し、県政が長期に渡り滞り、11月17日に知事選が行われました。齋藤県政の安定と成長に期待し、全国に誇れる兵庫県に戻すことが重要と考えます。このように慌ただしい一年でありましたが本年度の当会事業は順調に進めることが出来ています。ひとえに兵庫県幹部職員の皆様のご支援と、会員企業様のご理解とご協力のお陰と改めて感謝を申し上げます。

さて、2025年令和7年巳年がスタートしました。蛇は脱皮して殻を破ることから、「巳年は復活と再生の年」とされます。このことから本年は「阪神・淡路大震災から30年の節目の年であり、復活と再生した兵庫を印象付ける記念すべき年」であります。よって、当会の震災から30年の歩みを振り返り、当会の活動をより充実した事業に繋げていきたいと考えています。会員の力を結集し、これからの兵庫の安心安全なまちづくりに貢献していく所存であります。

そして、現代社会が求めるまちづくりは、長期的な視野に立ちつつ、長年の考えから新しい着眼点、発想を求められる時代に移りました。地域住民との連携を強化し、住民参加型のまちづくりが重要と考えます。兵庫県建築会では、建設会社、建築業関連会社、建築士事務所、公的機関などが所属し、多種多様な会員構成が特徴です。モットーである「ヒューマンネットワーク」を大切にし、会員が持つノウハウ並びに情報を会員間につなげていくことが新たな発展、成長に繋がると考えています。

本年も皆さまから益々のご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とします。



《新春メッセージ》

「躍進する兵庫へ さらなる挑戦」

兵庫県知事

齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様のご負託をいただき、昨年11月より知事として2期目のスタートを切りました。新たな施策や改革に取り組んだ1期目の挑戦を緩めることなく、兵庫の未来を切り拓いていきます。

第1は、若者が輝く兵庫づくり。教育費の負担軽減や教育環境の充実、不登校対策の強化、不妊治療支援の充実など、若者の不安を解消し、一人ひとりが力を発揮できる環境を整えます。

第2は、誰もが活躍できる兵庫づくり。万博を機に、地場産業や農業、芸術文化など県内各地の活動現場へ国内外から多くの人々を誘うひょうごフィールドパビリオンのほか、次世代産業や有機農業の振興など、多様な活躍の場を広げます。

第3は、安全安心に暮らせる兵庫づくり。阪神・淡路大震災から30年の節目を迎える中、震災の経験と教訓を次の世代につなぐ取組を強化します。特殊詐欺被害対策などの暮らしの安全を守る取組にも力を入れます。

果敢な挑戦で新しい時代をひらく「躍動する兵庫」の実現には、県民の皆様と力を合わせたオール兵庫での取組が欠かせません。どうぞご理解とご支援をよろしく願います。



迎 春

旧年中は弊会の運営にあたりまして、会員並びに関係者の皆様には格別のご高配を賜り、ありがとうございました。

本年もより一層のご指導、ご鞭撻を頂きますようお願いいたします。

令和7年元旦

＝ 役 員 － 同 ＝

名誉顧問 瀬戸本 淳

会 長 山本康一郎

副会長 岡 澄彦

西谷 一盛

出野上 聡

顧 問 松浦 純

根岸 芳之

柴田 和弘

三木 健義

正木 恵子

原田 敏文

西上 三鶴

棚田 肇

石田 邦夫

理 事 松本 章

北浪 孝一

矢間 照人

湖亀 一登

宮崎 健一

前川 真一郎

安田 宏

吉本 義幸

幹 事 木下 勝功

瀬尾 武夫

池内 修

谷口 正樹

吉川 壽一

坂井 豊

長坂 浩

杉田 健一

監 事 山田 聖一

立花 充



IV 会員寄稿

「電気工事会社 3代目としてのあれこれ」

東洋電気工事株式会社 代表取締役副社長 合田和弘 氏

兵庫建築会の皆様、はじめまして。令和6年4月1日付で新規加入させていただきました、東洋電気工事株式会社 代表取締役副社長の合田と申します。会員寄稿の機会を頂戴しましたので、自己紹介をさせていただきます。存じます。

1989年（平成元年）9月5日生まれ、妻、7歳の息子、3歳の娘と4人で神戸市東灘区岡本に暮らしています。会社での立場は3代目の後継者です。実家は神戸市須磨区高倉台で、山々に囲まれた地域に育ち、昔は坊主頭のスポーツ大好きサッカー少年でした。小中学校のときはサッカーに没頭しておりましたが、須磨学園高等学校に入学して生活は一転、受験勉強に努めました。良い先生とクラスメートに恵まれて、京都大学へ合格、家業にも活きる期待も込めて電気電子工学科に所属しました。修士課程を修了後、新卒で鹿島建設の建築設計本部に就職しました。東京本社配属となり、オフィスを中心に電気設備設計に従事しておりました（図1）。これが天職だと感じたら家業には戻らない覚悟で一生懸命働きましたが、優秀な上司、同僚、洗練された会社の仕組みを目の当たりにし、自分が居なくても何も揺るがないだろうと思わせる大手企業の力強さを感じました。加えて、後継者不足が後を絶たないという日本の経済状況を見たときに「自分にしかできないことは、やはり家業を継ぐことではないか？」と天啓に導かれ、28歳で家業を継ぐ決心をしました。



図1：前職の設計案件

東洋電気工事に入社してからは、年下の先輩である技術者たちと対等に話ができるように、加えて現場の分かる経営者になりたいという思いから、一から現場仕事を覚えていきました。これまでに手掛けた思い入れのある案件は、2023年に和田岬にオープンした「こべっこランド」の電気工事です（図2）。コロナ禍で資材が入って来ない恐怖と戦いながら何とか現場を納めたこと、高い工事評点を頂いたことに大きな喜びを感じました。社内的にも、ただの後継者ではなく技術者として対等に見てもらえたかなと感じた瞬間でもありました。

現場技術の習得と社内の人間関係の構築が進むと同時に、次第に人事・営業的な立ち回りもするようになり、2023年6月から専務、2024年4月から副社長に就任して現在に至ります。同時期に、かねてから山本会長から弊社社長へ建築会の入会を勧めていただいておりますが、設計経験がある息子さんの方が建築会で広がりを作りやすいかもしれないという考えもあり、未熟ではありますが私が入会させていただいた次第です。長くなりましたが以上が主な経歴となります。趣味はゴルフ、好きな食べ物は焼肉、性格は温厚・冷静などよく言われますが、逆境に燃える傾向があり、「人手不足だ！」なんて言われれば言われるほど採用活動に力を入れてしまうようなタイプです。



図2：こべっこランド

さて、続けて東洋電気工事をご紹介します。1959年創業、今年で65周年を迎えました。主に3つの事業を展開しており、公共事業の電気工事、工場を始めとする民間施設オーナー様からの直需の電気工事、神戸空港灯火の維持管理業務を手掛けております。

公共事業では神戸市の優良工事表彰を5回受賞した実績があり、高品質で現場を納めることに重きを置いております。今年5月、秋篠宮ご夫妻が世界パラ陸上を観覧されるために神戸にいらっしやって、視察の一環として「こべっこランド」「灘さくら支援学校(図3)」を訪問されました。こべっこランドは先述の通りですが、灘さくら支援学校も、会場であるユニバー競技場のパラリンピックに向けた電気設備工事も、何と弊社が手がけた案件でした。偶然ではありますが、公共事業を通じて神戸のインフラ発展に貢献できている実感を覚えたものです。

民間工事においては元請の仕事が多くを占めます。高圧受変電設備(図4)という施設の心臓部の工事を得意とし、照明やコンセントなどの小工事も行い、自社で教育した職人(電工)による小回りの利く対応に定評があります。長期にわたり設備保全を行う前提で、工事履歴を帳票と図面で管理していくメンテナンスサービスが、特に改修工事の多い工場のお客様に「電気のご事は東洋さんに任せておけば良い」と全幅の信頼をいただいております。電気工事会社というと建築に伴う付帯工事としての電気工事を手掛ける企業をイメージされるかもしれませんが、弊社はエンドユーザーから電気工事を直接発注いただき、独自の仕組みで価値を提供しております。



図3：灘さくら支援学校

神戸空港の灯火維持管理業務は、開港に伴う灯火工事を請け負ったことがきっかけで始まった事業で、開港当初から約20年間その維持および管理を行ってきました(図5)。早朝から深夜にかけて滑走路に設置された灯火設備等を日々メンテナンスする仕事です。目立たない仕事ではありますが、ひとつのミスが飛行機の離発着に支障を出してしまう可能性があるため、責任の重い仕事です。神戸空港をご利用の際は、無事に飛行機が離発着できたあかつきには、弊社を思い出していただきますようお願いいたします。

上記のように公共事業という王道の軸を持ちつつも、電気工事会社としては少し変わったニッチな領域でも事業展開をしております。3代目後継者として入社した時点でこれら3つの既存事業は課題こそあるものの、仕組みが出来上がっている状態でした。これを維持・発展させていくことが後継者としての責務だと考えています。また経営者としての夢は東洋電気工事を「新進気鋭の100年企業」にすることです。



図4：高圧受変電設備工事



図5：神戸空港滑走路灯火

ただ年齢を重ねただけの老舗ではなく、その時代に合わせて変化し、挑戦し続ける風土のある長寿企業を目指しています。ベテランの知恵を活かしながら、若者が切磋琢磨してイキイキと働いているような、いつまでも目新しさを感じる100年目を夢見ています。その実現のために一番重要な経営資源は、「人」だと考えています。しかし、ご存じのように日本は超高齢社会であり、かつ建設業は慢性的な人手不足に苛まれており、特に一般認知度の低い中小企業においては採用が難化しております。東洋電気工事に入社してから採用活動を進めようとしたときに、大手企業に在籍していたときには感じることもなかった難しさを痛感しました。良い事業をしても、良い職場環境を整えても、良い人間関係が構築されていても、求職者に認知されていなければ意味がありません。そこで、様々な施策を試してみました。ホームページを求職者向けに全面的にリニューアルする、作業着やヘルメットなどをデザインし直す、若年層の興味を引くようなパンフレットを制作する(図6)、若手の活躍に焦点を当てた動画を制作する、SNSで情報発信する、会社説明会に積極的

に参加する、学校へ訪問する、など求職者との接点を作りこむことを地道に継続して行っています。弊社は、現時点で従業員は40名程度、いわゆる地域密着型の中小企業です。先述の通り、人手不足との声がやまない業界ではありますが、弊社ではありがたいことに若手が増えてきております。父親が社長に就任した約20年前、50.4歳だった従業員の平均年齢が、今では40.5歳となり、従業員の半数以上が30代以下を占めるまでに至りました。若手従業員たちはまだまだ技術者としては粗削りな部分がありますが、企業の存続を占う若年層の確保が実現されつつあることに大きな喜びと期待を感じております。若手が増えて強く実感することは、各々が強みと弱みをしっかりと持っていて、画一的な働き方を要求すると生産性が落ちてしまうということです。良くも悪くも多様な働き方を認めて、個性を發揮しながら事業を進めていくことが大切なのではないかと考えています。「新進気鋭の100年企業」を実現するために、新しい事業や新しい働き方を模索していく必要性をひしひしと感じております。

兵庫建築会には、弊社が手掛けてきた事業ではお仕事でご一緒する機会がなかった企業様が多数いらっしゃいます。建設業に身を置きながらも、建設会社様や設計事務所様との関わりは多くはありません。実際これまでに建築工事に関わったときは、既に設計された案件の引き合いを頂くことが主でした。その都度、会社としては「こんな話があるなら設計時点から携わることができれば、人員配置も経営の見通しも立てやすいのになあ」なんてことを感じるばかりでした。若手が増え、様々な方向性でチャレンジできる可能性が広がる今のタイミングで建築会に入会させていただいたのも何かのご縁です。自身の設備設計者としてのキャリア、元請企業としての実績、若手のポテンシャル、そして会員の皆様との交流を通じて得られる知見を活かし、面白い化学反応を起こすことでWin-Winな関係を構築できればこの上ないことです。まだまだ未熟ではございますが、兵庫県建設業の発展に少しでも貢献できればと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



図6：求人用パンフレット

V 事業推進委員会

事業推進委員会が下記のとおり開催されました。

日時：令和6年12月12日（木）

17:00～19:00

場所：神戸元町 梅の花

参集者：会員等 22名

(1) 講演会 17:00～17:30

演題：「スペイン・ビルバオ探訪記」

講師： 当会顧問 石田 邦夫 氏

(2) 懇談会 17:30～19:00

(スペイン全図)



VI お知らせ

◎行事予定

1 令和7年新春会員交流会

日時：令和7年1月9日（木）

17:00～19:00

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

2 月例会

日時：令和7年2月6日（木）

12:00～14:00

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

演題：「南海トラフ地震に備えて」

講師：NPO 法人 ひょうご地域防災サポーター隊
理事 林 健児 氏

3 月例会

日時：令和7年3月6日（木）

12:00～14:00

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

演題：「関西・大阪万博に向けて」

講師：兵庫県万博推進課
課長 岸本 健吾 氏

4 理事会

日時：令和7年3月6日（木）

14:00～15:00

場所：神戸三宮東急 REI ホテル

議題：令和6年度事業計画 等

◎編集後記

あけまして、おめでとうございます。

2025年巳年がはじまりました。国内外で多様化、複雑化する社会の問題が山積してありますが、前向きに、新たな気持ちで、兵庫県建築会の事務に携わって参りたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願ひします。

事務局：吉本義幸、石井滝実子
電話：078-996-2851
FAX：078-996-2852
Email：archit-k@axel.ocn.ne.jp



安心をカタチに

兵庫県住宅再建 共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「暮らし」

今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら
▶ 30年以内の発生確率 最大 80%!
▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟!

活断層地震が発生したら
▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら
豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した
住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ！**

県内に住宅（戸建て・マンションなど）をお持ちの方に

県内の住宅（借家含む）にお住まいの方に

住宅再建共済

年額5,000円で
再建、補修時等に
最大600万円 給付!

※半壊（損害割合 20%）以上

一部損壊特約

年額500円で
補修時等に
25万円 給付!

※損害割合10%以上20%未満

家財再建共済

単独加入 年額1,500円で
住宅とセット加入の場合 年額1,000円で
購入・修復時に **最大50万円** 給付!

※床上浸水・半壊以上

※住宅の被害認定（損害割合）は、住宅の所在する市町が発行する「り災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400** (平日9:00~17:00)
FAX: 078-362-4082

E-mail jutakukyosaikikin@pref.hyogo.lg.jp

フェニックス共済 検索 *加入申込書はダウンロードできます*



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・県民局・県民センター・市役所・町役場・郵便局（簡易郵便局除く）にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、インターネットからのご加入が便利です！